北九州中央市場
仲卸の小林青果

フードバンクに青果提供

週1回、正規品にこだわり

北九州市中央卸売市場の青果仲卸・小林青果（岩本良一社長、年商80億円）は、同市内の認定NPO法人フードバンク北九州ライフアゲインに青果の提供を開始した。4月から週1回、家庭で使い勝手の良い野菜4品目と果物の正規品を届ける。同社では「この取組みを始めて、とくに子どもへの支援が必要だとわかった。当社は創業以来70年この地でお世話になっており、地域の子どもの健やかな成長に貢献していきたい」（末嶋美則専務）とする。

「わが国では年間500～800万トンの食品ロスが発生しているのに、食料の支援を必要としている家庭が北九州市に多く存在している」（末嶋専務）。こうした状況を同社の岩本社長が知り、北九州商工会議所の食品部会部会長でもある同市場の青果卸・北九州青果の百合野博社長の仲立ちもあってライフアゲインへの提供が実現した。

現在提供しているのは、ライフアゲインからリクエストのあったキャベツ（2ケース）、ジャガイモ、タマネギ、ニンジン（各1ケース）、旬の果物で、すべて正規品。

「食品ロス削減の観点からすると規格外品や市場で残った商品などのほうが適切かもしれないが、毎週決まった量を確実に提供したいため正規品とした」という。毎週月曜日の朝に同社がライフアゲインに届ける。

提供した青果は、他社から寄贈された食品などとともに市内の100世帯に提供される。

ライフアゲイン事務局兼食料支援相談員の袋野茉緯未（まいみ）さんは「家計をやりくりする際に、まず食費が削られます。限られた予算で子どもをお腹いっぱいにさせようとすると、価格が高くなりやすい野菜や果物は後回しになりがち。こうした状況の中で、正規品をお渡しすると親だけでなく子どもがとても喜んでくれます」と話す。

一方、小林青果では、正規品に加えて今後は規格外品などの提供も進めていく考え。

同社では量販店への販売を中心に、福岡県、佐賀県のスーパー9店に青果売場を展開、さらにはECサイトやふるさと納税の返礼品の提供も手掛ける。そのため、上位～下位等級品まで幅広く調達し、ピッキングやパックの過程でハネ品などが発生しているという。

ライフアゲインではそれを運営する子ども食堂の食材として活用できるとし、「規格外品の活用は食品ロス削減だけでなく、食育にも有効」と歓迎する。

小林青果では「こうした支援の活動を市場業界にも広げたい」とし、まずは社内研修会などを通じて食品ロスの現状やフードバンク活動への知識と理解を従業員に浸透させていく。

一方、ライフアゲインでは「子どもたちを笑顔にするには大人たちの理解と支援が必要」と訴える。ライフアゲインのみならず多くのフードバンクで食品が不足している状況。とくに米や青果物は不足しがちで、支援が必要という。

末嶋専務（上写真左）とフードバンク北九州ライフアゲインのスタッフ。青果は分けて家庭に提供する